



609

特 240

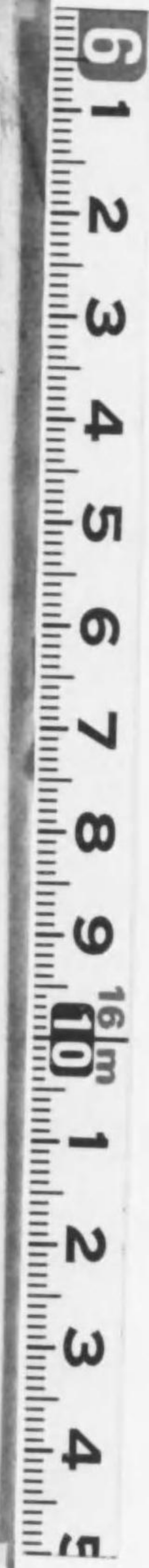
481

海軍中將 飯田久恒述



時局に對する國民の覺悟

上海國民精神總動員聯盟



始



特 240  
481

海軍中將飯田久恒閣下は、海軍協會副會長として帝國海軍、並海事思想の普及のために寧日なき活動を續けられてゐる。本稿は本聯盟の委囑を容れて、御多忙の裡に、特に『時局に對する認識の徹底』のために、御執筆下されたのである。茲に附記して厚く感謝の意を表する次第である。

## 時局に對する國民の覺悟

飯田久恒述



今回の支那事變は、皆様御承知の如くに進展しつゝありまして、皇軍の嚮ふ處敵なく、水陸共に着々其の戦果を收めつゝあり、蔣政権の没落も最早や時日の問題と思はれるのであります。

然しながら今回の事變は、當面の敵たる支那軍隊のみならず、其の背後に在りて人道の美名に隠れ、自己の慾望を逞ふせんが爲め陰に陽に蔣政権を援助し、皇軍の使命達成を阻止せんとする、種々の國家若くは團體の在ることを忘るゝことは出来ないのであります。

故に、吾々國民としては、是等影武者が事變の終局に近づくに従ひ、如何なる行動に出づべきや、即ち事變總決算に當り、漁夫の利を占めんとする彼等の策動に對應すべき準備を整へ置き、一旦緩急あるに際しては能く之を善用して、戦ふと戦はざるに拘らず、國家を泰山の安きに置き、皇國の使命達成に邁進しなければならぬのであります。

以上、事新らしく申す迄もなく、今日迄知名の方々の講演や放送等にて、御耳に這入つて居ることゝ存

じますが、こゝには特に海を主とする見方、即ち海軍と海事方面を主として、御話を申上げて見たいと思ふのであります。

二

日清、日露の戦争は素より、先年の上海事變、又此度の支那事變等で御承知の通り、吾國が苟も大陸方面に軍事行動をなすの要あるに當りましては、必らず、海軍が、先づ以て嚮導の任に當り、爾後作戰の進行に従ひ、軍隊の輸送に、兵器、軍需品の輸送若くは之が警衛に、充分なる海軍力の必要なるは申す迄もなく、現に今回の事變の如きは、以上申述べました輸送警衛に、加ふるに支那船舶の交通遮断を行ふ爲め北は山海關より南は支那領土の南端佛領印度の境迄、二千八百五十哩に亘る海上に、海軍力を以て一口に云はゞ障壁を築きますし、揚子江流域に沿ふては、深く支那大陸の相當奥地迄海軍力の遡航を敢て致し、又御承知の通り、海軍荒鷲部隊を以て、支那四百餘州の殆んど全部に爆彈の雨を降らす等、陸軍を主とする大陸作戰に於ても、海軍の協同作戰を要することは、事變以來各種の報導に依り大體御承知の事と存するのであります。若し夫れ、海上作戰を本幹とする彼の渡洋作戰、即ち海を渡つて來襲する敵に對しては、夫れこそ我海軍の全兵力を擧げ、日露戦争當時の如き、否夫れ以上の大決心を以て、極東海面の確保に當らなければならぬのであります。

然るに現下列強大海軍國の狀勢を見まするに、孰れも尨大なる豫算を編成致しまして、今後四、五ヶ年の先を目標に、大海軍力の充實擴張に狂奔して居るのであります。此等擴張の目的が、奈邊にありやは人の見方考へ方にも依りませうが、新聞紙上に現はるゝ處に依りまして、直接間接に我國の發展を嫉視致しまして、機會あらば一大壓力を加へ、出來得るならば、開はすして優越の位置に立たんと企圖するものゝ如く、今回支那事變の終局に當り、是等武力の運用を腦裏に置き、急ぎ大擴張を爲さんとするは火を賭るより瞭かなるものと思はるゝのであります。

列強海軍力大擴張の狀況は詳細く申上ぐる暇はございませんが、極く簡単に申上げて見ますれば、英國は海軍、空軍、陸軍の大擴張の爲め、五ヶ年間に十五億ポンドを支出する計算でありまして、本年度當りは海軍だけに一億二千五百萬ポンド、之を我國の貨幣に換算しますと、ざつと二十億圓餘になりまして、但し空軍は全く別であります。扱て、數年後大擴張の出來上りました曉には、戦艦二十五隻を基幹とする大艦隊となり、艦齡超過の艦船を合すれば、優に二百萬噸に達し、軍縮會議條約量の略ぼ二倍となり、極東に對する配備も自然強加の餘裕を生じ、三億五千萬圓を費やしたる、新嘉坡根據地と相俟つて、極東に對しては特に重大なる意義を有する問題と考へられるのであります。

次は米國であります。米國海軍も既に新聞紙上に御承知の通り、産業復興費からの割當と、『ビンソン』案の決定で、三十五萬噸の建造に着手し、ロンドン會議の條約量全部が充實せらるゝこととなり、更に最近第二次『ビンソン』案の提出となり、約十一億五千六百萬ドル邦貨約四十億圓を以て、現計畫の保有兵力量を約二割方増加し、太平洋作戰根據地たる布哇眞珠港の完成と相俟つて、海軍航空兵力と共に、太平

洋上は亦大なる意義を有するのであります。

最近傳ふる處に依れば、新戦艦は英、米共噸數四萬噸以上十六吋砲搭載のものとなり、陸奥、長門に比し相當優勢のものとなるものと思はれます。

此他極東海面に最も關係深き海軍力としては蘇國海軍に注意を怠る譯にはいかないのであります。同海軍は從來陸軍、空軍の擴張整備に追はれて未だ大なる發展の域には達して居りませんが、最近國防省から海軍省を獨立して海軍の整備に乗り出す姿勢を採り、極東方面にも着々増勢し、浦鹽方面には既に潜水艦五六十隻其他高速艇多數存在するもの、如く、吾國と大陸との海上連絡に對しては相當の考慮を拂ふ要ありと信ぜらるゝのであります。

以上列擧したる列強海軍力は遅くも四五年内に完成の域に達するのでありまして、其目的が奈邊にあるに拘らず、兎に角夫れ丈け老なる實力を備へた以上、其移動性に鑑み、何時如何なる方面より殺到するやも計り難く、現今列強の日本及支那に對する諸種の行動に徴するも、帝國が決して無關心なる能はざるのであります。

由來我國は軍事行動に於ては殆んど間然する處なく、海陸共に能く作戰の目的を達するのであります。最後の締め括り、即ち外交關係に於て充分ならざるものがある様に感ぜらるゝのであります。即ち日清戦争の終りに三國干渉は十年後の日露戦争の原因となり、日露戦争の終末は其の徹底を缺いたが爲め、累を今

日に及ぼして對支、對蘇問題の因をなし、又、前回の上海事變の結末は今回の上海事變に直接の原因となる等、事情素より已むを得ざるに出でしには相違なきも、稍や徹底を缺きたる憾なきにしもあらず、今回支那事變の結末に當り、再び列強海軍力等に氣兼し、再度徹底を缺くが如きことあらば夫れこそ禍を千載に残すこととなり、今回の事變をして全く無意義なるものとなし終るの恐れなしとせず、是れ吾等國民が一致協力私奉公の精神を發揮し、日清、日露戦争前吾々の先輩國民が最も困難なる事情の下に臥薪嘗膽備の充實に努め、明治天皇の叡慮と國民一致の力能く此國難に處し得たるに想ひを致さるべからずと考ふるのであります。

明治二十六年二月 明治天皇より在廷の臣僚及び帝國議會の各員に告ぐと云ふ御詔勅を拜し、御内帑へ六年間、毎年三十萬圓を御下賜と共に、文武官僚に對し、此間俸給十分の一を製艦費の補充に當てしめらるゝとの御恩召を拜し、此れに刺戟せられて民間よりも海防費献金となり、富士、八島其他を外國に注文することゝなつたのであります。富士八島は遺憾ながら日清戦争の間に合はず、戦後になつて、吾國へ廻航し來り、之に加ふるに三國干渉に依る國民臥薪嘗膽の結果、更に戦艦四隻、其他裝甲巡洋艦以下の備となり、此等の艦船が着々竣工我國に廻航し來りたるが爲め、日露戦争には戦艦六隻、裝甲巡洋艦六隻を基幹とする所謂六六艦隊こそ、日露戦争の大立物となつたのであります。東郷大將が如何に名將なりとて、此艦隊の整備なくしては到底當時の露西亞に對し戦勝は六ヶ敷かつたらうと思ふのであります。

是全く前に申しました通り 明治天皇の歡慮は申すも恐れ多いことでありますが、一は吾々先輩國民が眞に臥薪嘗膽貧弱なる國力にありながら、思ひ切つて艦隊の整備に努力した結果に他ならないのであります。此歴史に鑑みまして、吾々は今や一日も安閑たる能はず、如何なる困難に直面するも、是非共速に當局者をして萬全の策を講ぜしめなければならぬのであります。

艦船兵器等進歩致しまして益々複雑性を帯びて参りました今日、豫てより帝國の國是として發表して居ります不齊威不侵略の原則に基き、如何なる艦船兵器を如何に整備按配すべきやは勿論海軍の専門事項でありまして、此點は全然海軍當局に信賴して然るべきものでありませうが、之に要する原動力即ち經費の點に就ては國民の最も關心を持つ要件と信ずるのであります。之等の經費は今後數ヶ年間に亘り恐らく多額の數字に昇るのでありませうし、又現下進行中にあります支那方面の軍事行動や宣撫運動又將來相當永き期間に及ぼすべき警備費資源開發費等を豫想致しますと、政府と謂はず民間と謂はず、吾人の負擔すべき經費は相當尤大の額に上るべきは専門家を俟たずしても殆んど豫想に難くないのであります。萬一吾々國民が之等の負擔に耐へぬとなれば夫れこそ今回支那事變の行動は全く意味を爲さぬこととなり、護國の鬼と化したる幾萬の犠牲者に對して國民として全く合はず顔の無い次第であります。此點吾々國民が如何なる困難を忍びても勇往邁進地下の英靈に應へねばならない點と信ずるのであります。

以上海軍の整備に要する經費と大陸方面に要する軍事上又平和施設に要する諸經費並に將來相當永き期

間に亘るべき資源開發等に要する經費を合算せば、年々吾々國民の負擔すべき費用は相當巨額に上り、現存國民の懐にある所謂有り金のみを以て之等に應ずることは到底不可能のことでありませうから、勢ひ對外關係を改善し、海を踰へて毎年多額の入金考へなければならぬと思ふのであります。

是れには幾多の方法が考へられ、國民に對し海事思想の普及を司とる吾々が機會ある毎に國民諸君に御話をして居るのでありますが、先づ第一に考へに入るべきは勿論貿易の改善でありまして、輸出原料以外内地消費の輸入を極力減じ輸出増加に全力を注ぐのでありまして、爲替關係等種々の問題もあり、専門的に論ずれば六ヶ敷問題でありませうが、要は國民全體が減私奉公の精神を以て各其の業務に精勵し、優秀なる品物を低廉に生産することに努め、如何なる關稅障壁等に出遇ふも、遂には水の低きに就くが如く其の捌口を見出し輸出の目的を達するより他ないのでありませう。

甚だ聞苦しい話ではありますが、近來輸出よりも其物品を内地に振り向ける方が有利であるとして商賣の方向轉換をしたと云ふ話も聞きますが、之等こそ全く時局の認識を誤り、非常時に際し許し難き不徳漢と信ずるのであります。昔彼の有名なる錢屋五兵衛が商機に明るく巨萬の富を重ねたるとき、隠れたる學者であり、變りものとして知られたる大野傳吉が五兵衛に對し、五兵衛さんあなたが何位大きな金を積み、假令加賀様の富を一身に擔ふも一體夫れが國家の爲め何になるか、日本國としては元々ではないか、夫れよりお前の商才を海外貿易に振り向け、外國の富を日本に取り込む様にしてこそ國家の爲めになるのではないか

と此一言に感奮し、五兵衛は蝦夷方面には露船と、小笠原、琉球方面に往ては英、米、和蘭の船と交易し、愈以て巨大な利益を得て國富を増したと云ふ話も残つて居るのでありますが、今日に於て最も重要な貿易の改善即ち海を踰へての商賣であるのではないかと存じます。

之に次で大なる収入を得る途は世界を跨に掛けて歩く商船の稼ぎ高であります。

幸にして今や日本は貨物船に於ては相當優勢の位置にあり、年々貿易以外の請取勘定として貿易の帳尻を埋め合はす額は相當多額に上る様に思ひますが、商船界全體としては發達の餘地極めて多く、現在英國商船界に對しては多大の遜色ある次第であります。此項は海上關係の御方には御釋迦に説法ゆゑ省略致します。

商船に次では遠洋漁業の収益であります。

遠洋漁業も年々進歩發達の域にありまして、北海の鮭、蟹等、太平洋、南洋方面の各種海産物殊に近年長足の進歩を致しました南氷洋の鯨取等は等、無盡藏の資源より穫る毎年の收穫、特に輸出に依る受取勘定も今年々増加の一方にあるのであります。殊に漁業、海産物收穫の如きは諸外國と大なる衝突なく發展し得る極めて有望な事業と思はるのであります。

斯く目を廣く海洋に放ち、國の發展策を考究致しますときは一方大陸方面に相當な經營をなしつつ、なほ且國防を全ふし得るのではないかと存するのであります。

簡單ではありますが、以上述べました様に、國力發展を目標とする事業に前進しつつ、大陸方面に於ては隨時状況に應じ、或は軍事行動を進め、或は資源の開發に國力を擧げて勇往邁進せんとするには、兎に角何を置いても國民の一致協力と滅私奉公の實を擧げ、幾多の抵抗を排除しつつ、堅忍持久以て永遠の目的達成に努めなければならぬと信するのであります。

一致協力、滅私奉公、堅忍持久等は夙に國民精神總動員聯盟の國民一般に對し、手を換へ所謂嚙んで含める様に説得して居る處であります。然らば果して是等の精神が國民一般各層に徹底して居るかと思はします。遺憾ながら未だ充分とは申難い點が多々ある様に存するのであります。

是れ畢竟着々迫り來らんとする國難に對する認識足らず、日露戦争を始め爾後度々の事件が表面順調に經過し、國民として國難の體驗足らず、殊に歐洲大戰に當り、彼等歐洲が勝敗に拘らず非常なる國難に直面し充分の試練を経たる間、吾れは極東に隔絶して却て順調に大戰役を経過し、一口に申さば苦勞の足らざる國民となりたるにはあらざるか、彼を思ひ是を思ひ、歐米列強の魔の手が着々極東に迫らんとし、而も支那事變最後の總決算が幾多の問題を包蔵するに當りては、國民たるもの只今即刻一大決心の臍を固め、眞に滅私奉公の實を擧げ、今後四五年間に迫り來る大國難に處する眞の對策を講ずると共に、一方小國民の教育に努め、眞に海國民たるの素養を習得せしめねばならぬ時代と信するのであります。

教育の事に至りては到底一朝にして其効果を現はすこと難いのは勿論であります。支那の抗日侮日の

教育が正しきと、正しからざるとは別問題として、十年間ソッコにして兎に角一種の結果を現はしたるに鑑み現下の帝國に對し、海事思想の教育は國力發展上何を置いても必要缺く可らざるものと信じ、吾々に於ても新事業の一として教育界を通じて海軍の事は固より海、事思想、即ち海を如何に利用し國力の發展に資すべきやの教育を國民一般に普及せんとしつゝあるのであります。

要するに今や海軍並に海事に關する國論を一定し、國際上一朝事あるに際しては戰時たるも平時たるもに拘らず國民的大決心のある處を中外に披瀝し、八紘一字の大精神に依り皇國永遠の目的を達成せなければならぬ最も大切な時機と信するのであります。

最後に一言加へ置くことを御許し願ひ度いのは、國論に關する日本人の考へ方であります。是れは國體の異なる點もありませうが、歐米各國に於ては政府代表者の言ふことよりは、其背後にある國民の意志を重く見る様でありまして、國論なき外交などは到底達成の見込みのないものと思はるのであります。現に華盛頓會議第一次倫敦會議の如き、國論なき國際會議がみじめな結末に了りましたことは未だ皆様の御記憶に新たな事でありませう、此點に關しまして早く國論喚起に努め、支那事變の終末に際しては一糸亂れざる歩調を取りたいものと今より念願する次第であります。

列國海軍現有(既)勢力 (昭和十二年九月三十日調)

艦種	日本		米國		英國		佛國		伊國		獨國		ソ聯		支那	
	隻	噸	隻	噸	隻	噸	隻	噸	隻	噸	隻	噸	隻	噸	隻	噸
主力艦	戰艦	戰艦	戰艦	戰艦	戰艦	戰艦	戰艦	戰艦	戰艦	戰艦	戰艦	戰艦	戰艦	戰艦	戰艦	戰艦
	11	21,000	11	21,000	11	21,000	11	21,000	11	21,000	11	21,000	11	21,000	11	21,000
	戰艦	戰艦	戰艦	戰艦	戰艦	戰艦	戰艦	戰艦	戰艦	戰艦	戰艦	戰艦	戰艦	戰艦	戰艦	戰艦
	11	21,000	11	21,000	11	21,000	11	21,000	11	21,000	11	21,000	11	21,000	11	21,000
航空母艦	1	21,000	1	21,000	1	21,000	1	21,000	1	21,000	1	21,000	1	21,000	1	21,000
巡洋艦	A級	B級	A級	B級	A級	B級	A級	B級	A級	B級	A級	B級	A級	B級	A級	B級
	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
驅逐艦	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
潜水艦	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
合計	11	21,000	11	21,000	11	21,000	11	21,000	11	21,000	11	21,000	11	21,000	11	21,000

(1) ▲は水上機母艦を示す  
 (2) 米國には本表に示せる以外に掃海艦にして補助航空母艦として使用中のもの十隻あり  
 (3) 米驅逐艦中には輕敷設艦四隻四、六四〇噸を含む  
 (4) ソ聯邦航空母艦は其の存在疑問なり

時局に對する國民の覺悟

昭和十三年七月二十日印刷  
昭和十三年七月廿三日發行

【非賣品】

神戸市神戸區海岸通三ノ二二一  
編輯發行 西 卷 敏 雄  
兼印刷人

神戸市神戸區海岸通三ノ二二一

發行所 海上國民精神總動員聯盟

電話 三宮 六〇三番



終

